

最後の プレゼント（前編）



烏賊松

来た来た来た



やっぱ胸
でけー!!

ケツも
エロくて
たまんねーっ!!



あっ

こっち
見たー!!

バカ!
あんまデカイ声
出すなよ
聞こえたら
どーすんだ!!



あ
笑ってる
笑ってる!!

ヒヤッホー!

涼子先生ー
愛してるよ
!!





このクラスから
いなくなつて
くれる
だけでいいんだ!!

そんな事は
さて置き
頼むよ笹野



この学校には
俺の方が姉貴より
先にいたんだ

文句なら
教育委員会にでも
言いやがれ!!



俺は今17歳の
高校3年生

2年生の時までは
ごく普通の高校
生活を送っていたが

3年生になった
今年から学校生活が
一変してしまつた



毎日お前の墓に
ポッキーをお供え
してやるから

サクッと
死んでくれ
!!



帰る!!

アホらしい!!

のし

のし



俺の姉ちゃんが
新米教師として


俺の通う高校に
赴任してきたのだ



姉ちゃんは
今年大学を出た
ばかりの23歳

今でもたまたまに
高校生と間違え
られるほどの
童顔だが

身長は165で
スラッとしている



そして胸には
ばっちりパットを
入れたりして
妙にエロイ体系に
見えるから

男子生徒からは
絶大な人気を
得るようになって
しまった

でも法律の関係で
姉ちゃんは弟の俺がいる
クラスで授業をしては
いけない事になっている
らしい

そのお陰で
俺はクラスの男子から
毎日のように文句を
言われている



歳が離れていた事もあり
姉ちゃんは昔から俺を
かわいがってくれた

今でも
その頃と変わらず
俺は姉ちゃんの事が
大好きだ



俺も姉ちゃんの事が
大好きで小さい頃は
どこへ行く時も
姉ちゃんにベッタリ
くっついていた

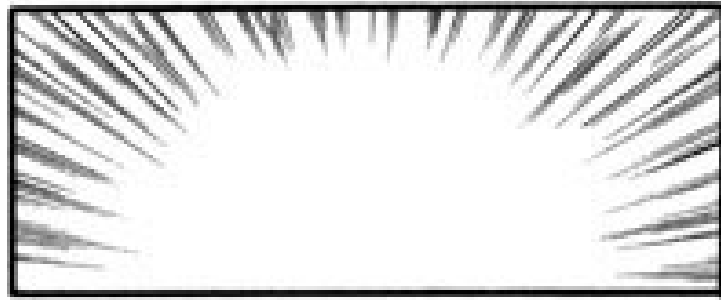
だから姉ちゃんには
ハイエナみたいな連中
だらけのこんな
イカ臭い学校には
あんまり来てほしく
ない



というのが
俺の正直な
気持ちだ



姉ちゃんは
いつまでも



俺だけの
姉ちゃんだ!!



よう笹野
どうしたんだ?

もしかして
カサ持って来て
ねーのか?



そうなんだよ

悪いけど
バス停までカサに
入れてって
くんない?

ケツ!!

やゝな
こった♪









みつくんと
こんな風に2人で
学校から帰る
なんて初めて
だよ



うん…
でもクラスの奴らに
見られたら
まだブーブー
うるさく言われ
そうだし…



俺学校じゃ
なるべく姉ちゃんの
そばに近寄らない
ように気を付けてる
からね



そっか…
みつくん
色々私に
気を遣って
くれてたんだ

ありがとね



あ！

そういえば!!



明日って

みつくんの
誕生日じゃない?!



やっぱーい！
まだプレゼント
用意してないよ
ー！！



なんでよ？

遠慮なんか
しなくてもいいよ



えー
プレゼントとか
別にいいよー



遠慮っていうか
…
俺ももう
高校生だし

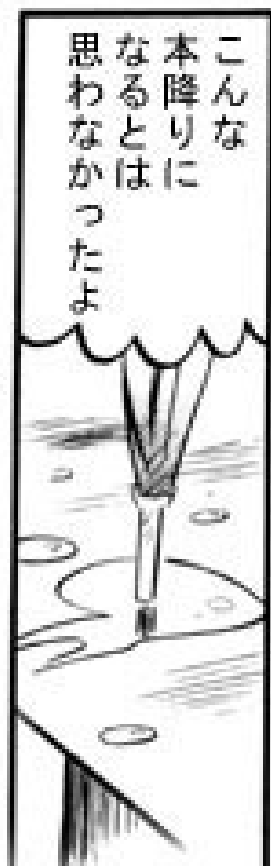
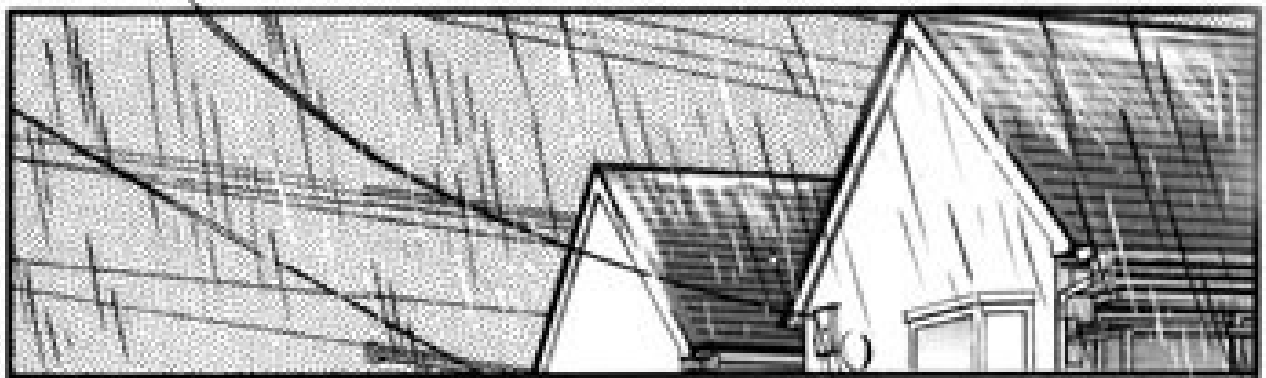
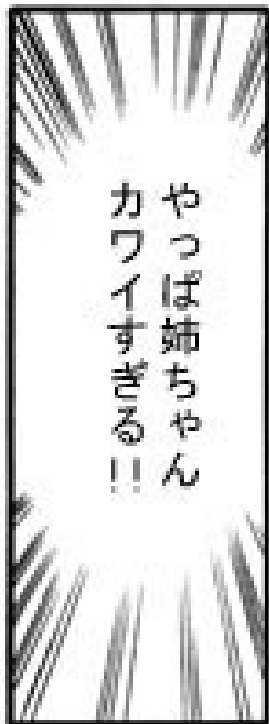
いつまでも
誕生日くらいで
浮かれるほど
子供じゃないよ



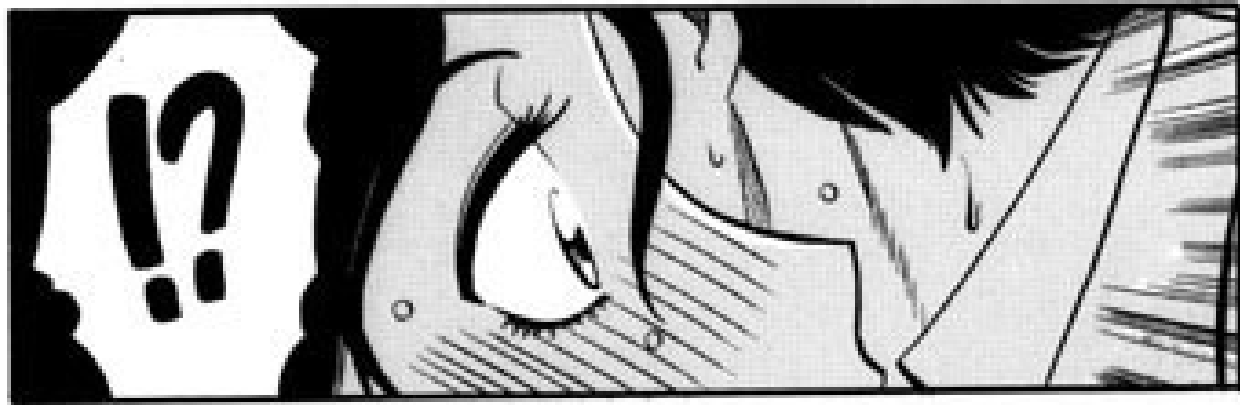
なに急に
大人ぶってるのよ

カワイク
なーい！！







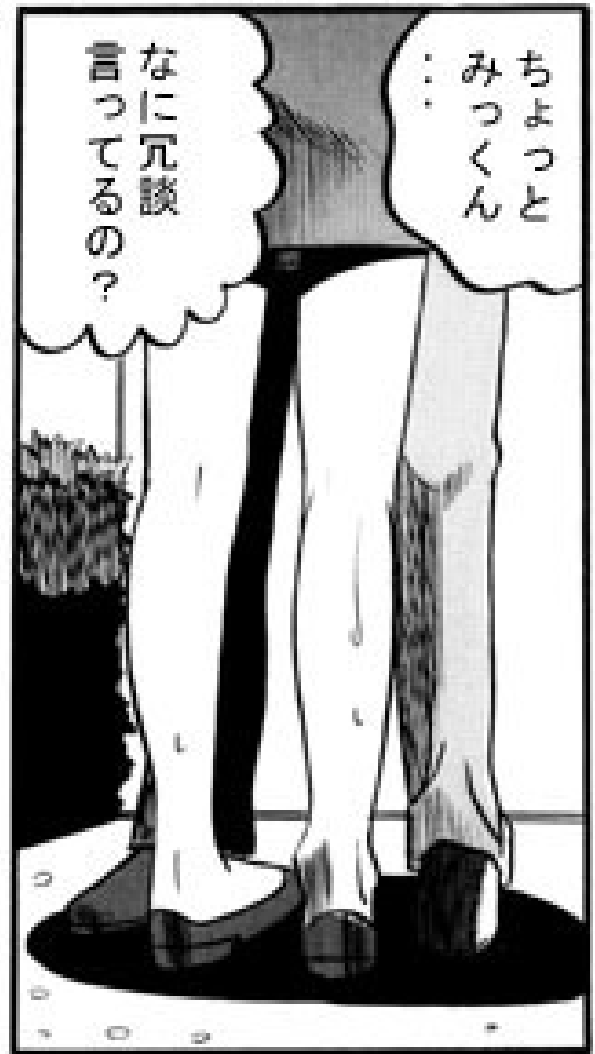


最後の プレゼント (後編)

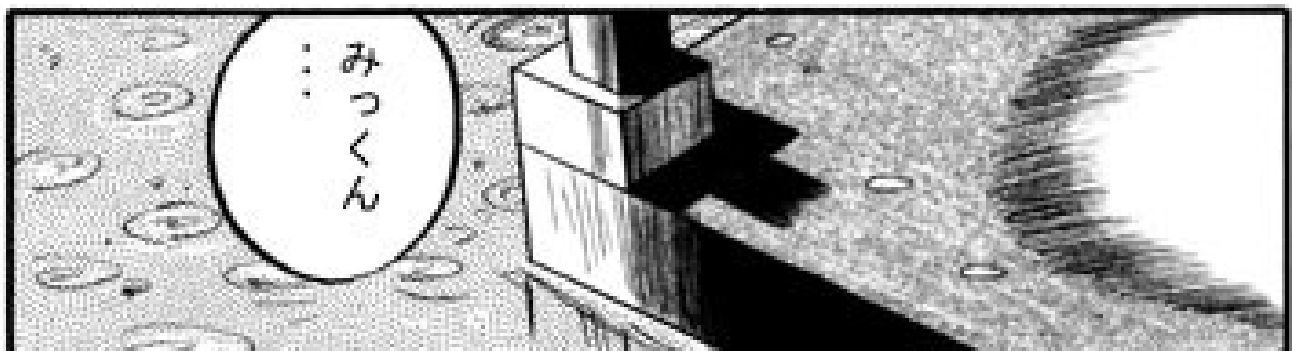
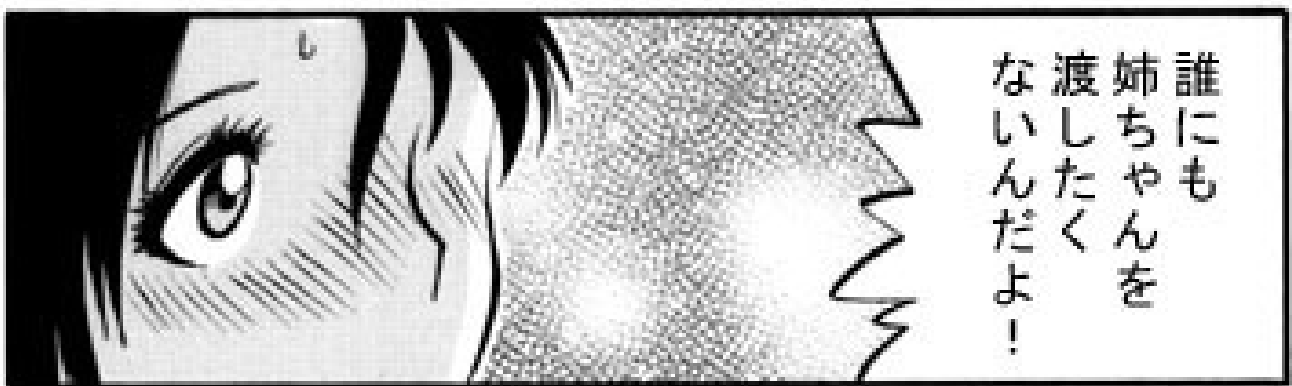


烏賊松

<http://manga.nan-net.com/>









気持ちはどうでも
嬉しいけど……

私たち

姉弟
なんだよ？



ヒゲ

ウ



こんなの
変だって事
自分でも
分かってる
けど

でもやっぱり
姉ちゃんと
エッチしたい
んだよ



だって俺

小さい頃から
ずっと姉ちゃんが
好きだったから

他の女の子を
好きになつた
事ないしさあ



わっ！

わわっ！

ちよ……

ちよつと

みっくん！



姉ちゃんも
どうしたらいいか
わからないまま

俺につられて
泣き出して
しまった

どうにも冴えない
告白になって
しまったが

そんな一方的な
俺の想いを

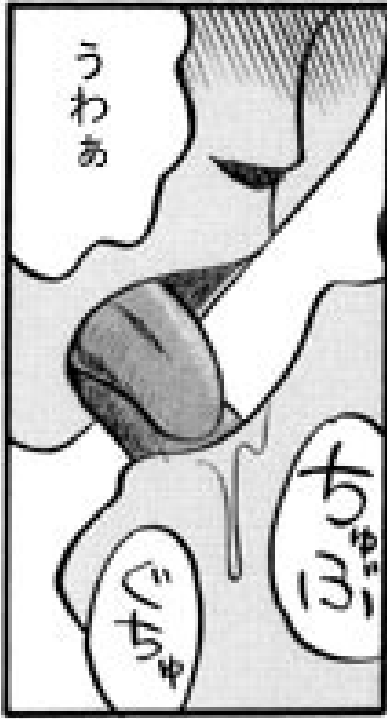


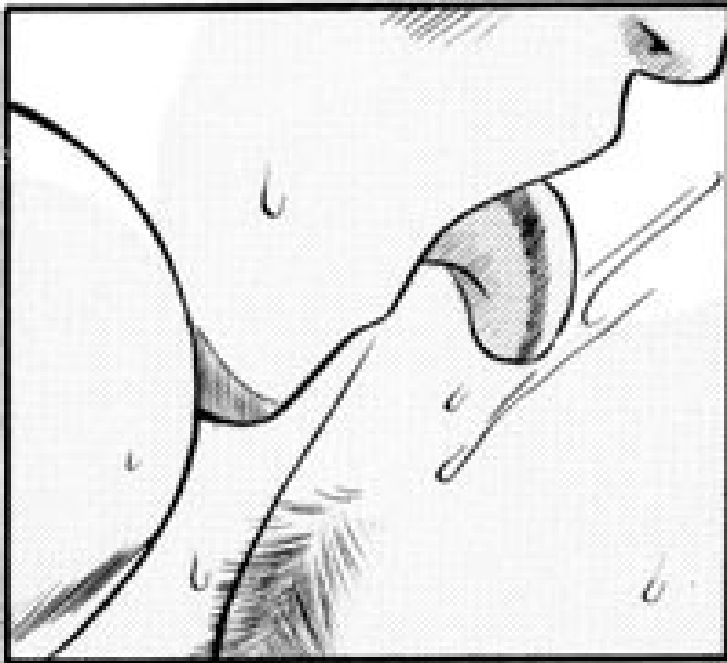
姉ちゃんは優しく
受け入れてくれた





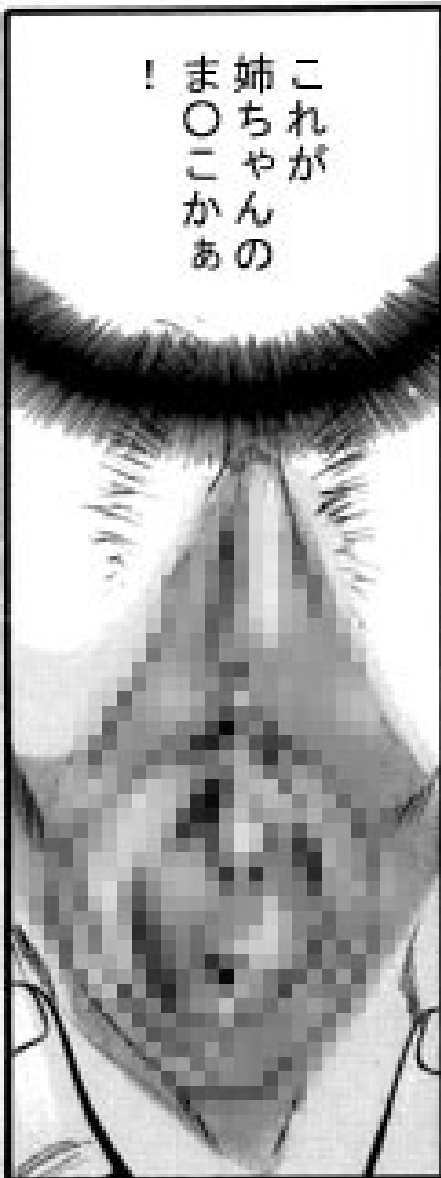






姉ちゃんも
感じてくれ
てるのかな
……?

ぬる
ぬちゃ
めっちゃ
濡れてる



これが
姉ちゃんの
ま○こかあ
!



それに

ちゅ
ちゅ

すく
柔らかくて

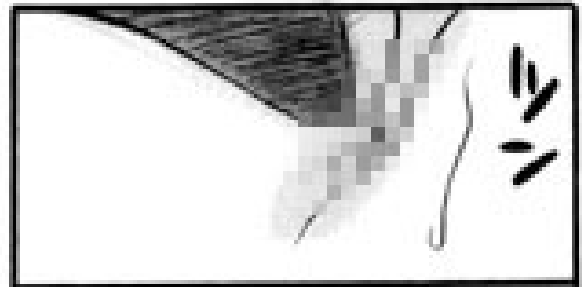
カワイイ



なんか



不思議な
味だ……



みつくん
そこ……
もういいよ

汚いから

もう
いいよお



汚くなんか
ないよ



すく
おいしい
……

もっといっばい
濡らして
姉ちゃん



全部
吸い尽くし
たい……

ちゅるるる



や……
ダメ……

あ……
頭が

おかしく
なりそ
……

んん！

み...

みっくう...ん!

俺も...
ね...姉ちゃん

おっぱい

う...

おっぱい



熱く絡みついてくる
姉ちゃんのま〇こは
信じられないくらい
気持ち良くて

俺は10秒も
もたずに
あっけなくイって
しまった

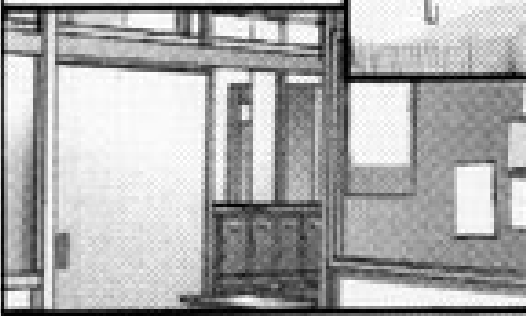




ごめんね

もう
これ以上は
……

俺と二人きりで
会おうとは
しなくなった



それから
しばらくして
姉ちゃんも
家を出て
アパートで
一人暮らしを
始めて



反対側の校舎で
授業をする
姉ちゃんの姿を
ただ見つめる事
くらいしか出来なく
なってしまうた

……うふ……



今日も
授業は
上の空